

根深ねぎにおける混合堆肥複合肥料を用いた省力低コスト施肥技術の確立

1 目的

近年の法律改正により、新しく『混合堆肥複合肥料』の登録が進んでいる。この混合堆肥複合肥料は、品質管理された堆肥をベースに化学肥料等で成分バランスを整え、造粒及び加熱乾燥した混合肥料であり、従来の堆肥よりも散布が容易であり、土作りの効果が期待できるとともに、化学成分由来の肥料成分よりも緩慢に肥効があるとされている。また、厩肥を原料としていることから、地域資源の有効活用につながると期待されている。

2 実施状況

- (1) 定植は8月10日に行った。試験肥料として朝日工業のエコレット048(鶏ふん堆肥配合肥料)と菱東肥料のレコアップ055とレコアップ252(豚ふん堆肥配合肥料)の3種を慣行肥料の白ネギ配合と比較した。施肥量は栽培基準のN6kgに合わせて散布した。追肥については、慣行と同様にNK2号(N:3kg/10a×2回)を施用した。
- (2) 定植75日後に追肥前の生育調査を行った。混合堆肥複合肥料の3区の生育は慣行の白ネギ配合区と同程度の生育であることが確認できた。
- (3) 定植170日後に収穫調査を行った。混合堆肥複合肥料を施用した3区と慣行白ネギ配合区の収量は同程度かやや多めであり、栽培期間の長い根深ねぎでも混合堆肥複合肥料を施用して栽培することが十分可能であることが確認できた。



混合堆肥複合肥料



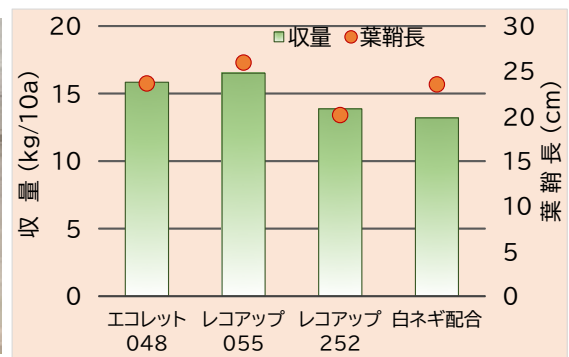
中耕・土寄せ



試験区毎の生育調査 (10月25日)



収量調査 (2月8日, 階級別)



試験区毎の収量及び葉鞘長(2月8日)

3 今後の課題、取り組み

- (1) 慣行肥料と混合堆肥複合肥料のコスト比較
- (2) 栽培跡地の土壌状態の把握 (無機態窒素, 可給態リン酸等)
- (3) 圃場に合った適正な成分量の混合堆肥複合肥料の選択と施肥量の検討